

## 会議等開催記録

会議等名	第2回根室市男女共同参画基本計画策定委員会		
開催日時	令和6年11月28日(木) 18時30分～20時00分		
開催場所	根室市役所2階 防災研修室 201・202		
出席者	委員	8名	
	市	中村市民生活部長、白川生活環境課長、渥美交通市民生活主査	
	オブザーバー	(株)北海道二十一世紀総合研究所 小山統括部長	
記録日	令和6年12月6日(金)	記録者	(株)北海道二十一世紀総合総合研究所 岩谷
		確認者	生活環境課 交通市民生活主査 渥美 悟

### 《開催経過》

第3次となる「根室市男女共同参画基本計画」の素案に対し、各委員から意見をいただくため開催したもの。

### 議事結果

#### 1. 会長挨拶

#### 2. 議事

- ・第3次男女共同参画基本計画（素案）への意見交換について

(1) 事務局から説明・・・資料1

(2) 意見交換・・・①市民の意識を確認するためにはアンケートの深堀が必要

②全体的に目標値が低いので再考が必要

③市役所の取り組みの見える化

④目標値の低さや出前講座の受け身な対応など市の取組姿勢

⑤男女共同の意味を勘違いしている市民がいると思う

⑥市民を講師に起用する人材バンクの設置

⑦教育の重要性、子どもだけではなく大人への教育も必要  
(詳細は後述)

#### 3. 終了

(1) 第3次男女共同参画基本計画（素案）への意見

A委員）（前回未参加のため確認）男女共同参画は、全国様々な自治体で取り組んでいますが、本委員会の目的として、私たちの目線から根室市に合った内容を助言するという考えでよろしいでしょうか。

会 長） そのように理解していただいて問題ございません。

B委員） 成果指標の「男女が平等である」と思う人の割合について、計画策定時の目標値を令和5年度の実績値が下回った原因をどう捉えていますか。

市 ) 第2次計画の効果検証でもご説明いたしましたが、6割の取組が進んだ一方で4割の取組が後退したことが1点。また、この10年間、根室市における男女共同の取組を積極的に発信してこなかったことが、市民のみなさんに伝わらず、数値が減少した結果と考えております

B委員） 周知ができなかった結果、「男女が平等でない」と考える人が増えたという認識でしょうか。

市 ) 成果を図る指標が現状ないため、アンケートの結果を判断材料としております。

B委員） この成果目標は難しい目標だと思っていて、私は、この10年間でジェンダー平等に対する個々人の意識が高まっていると考えています。そのため、これまで気づけなかった人が平等ではないことに気づいたことが、アンケート結果に反映されていると考えます。

成果目標として設定するのは良いのですが、次回のアンケート調査の際には、「どうしてそう思うのか」を掘り下げて分析できるようなアンケート設計が必要ではないでしょうか。

また、市職員の主査職以上における女性の割合が令和11年で25%となっていますが、内閣府の発表では、すでに現状において市町村係長相当職の35%が女性であり、令和11年、令和16年に掲げている目標が低すぎると感じます。

C委員） ジェンダーに関しては個人差があり、感じる（成長）時期、場所も人それぞれであり、アンケートで細かく掘り下げるのは難しいのではないのでしょうか。

B委員） アンケートの作り方によると思うので、そこはプロの方に任せるのがいいと思います。

D委員） 自分の仕事としてコーチングを行っている経験から言いますと、そもそも、このやり方は現実的ではないと感じています。

市民に浸透させたいものなのであれば、市民にゴールが何なのかが伝わっていないと、なぜ男女共同参画が必要なのかどうかが分からないと思います。

また、男女共同参画を平等としてしまうと男と女の平等という風に伝わってしまいますので、意図として、男女がお互いを尊重し合い、補い合い、認め合う気持ちが男女共同参画であるということが市民に伝わることがゴールであること、それがあつて生活において何が変わるかが伝わっていないと思います。

例えば、仕事がしやすくなる、家庭がもっと円満になる、職場や家庭での目標など、ゴールが市民に伝わらなければ、男女共同参画といって施策を市役所だけ

でやっても市民には伝わらないのではないのでしょうか。

計画案は素晴らしい内容で良いと思いますが、本当に市民と一緒にやりたい場合、市民のレベルに合ったゴールを設定してもらい、市民と一緒に進んでいく形をとる必要があると思います。

C委員) 先日、宮崎県で講演会に参加しましたが、講師の方がおっしゃるには、みなさん「平等を勘違いしていませんか？」というお話があって、「ホールケーキがあります。4人で平等に分けましようとなった時に、みなさんどう考えますか？単純に4等分にしますか？でも、4人がそれぞれ、食べたいと思わない。お腹が空いている、空いていない。そう言った要求を満たすことが平等であって、単純に4等分にすれば良いという話ではない」というお話でした。

ですから、本当に男女不平等で困っている人にアンケートをとって要求を知らなければ、平等を実現することは難しいと思います。本当に要求している人の平等とは何かを掘り下げる必要があると思います。平等という言葉をはき違えないようにする必要があります。

これまでの取り組みに関する意見ですが、目標値のうち達成されていないものが多いのは、市役所の単純な計算によるもので、市民の要求に合っていないやり方なのではないのでしょうか。

E委員) 市では、反省点として啓発がうまくいっていなかったことを挙げており、今後、啓発に力を入れるとのことなので、目標値によって啓発の仕方も変わっていくと思います。

B委員) 取り組み案の目標値についてですが、一つ例としてとりあげますと、出前講座を年に2回やっても本当に啓発になるのか疑問です。2回達成したから今年ももう行わないということであれば、効果的な啓発ではないと感じますし、他の取り組みについても疑問を感じます。

E委員) 具体的にどのような出前講座にしてやるのかまでこの委員会で構築できればよいと思います。自分は人権擁護委員を任命されているため、出前授業では活躍できる場が多いと思います。また、教育局の要請で勉強会も行っています。皆さんが協力できる体制でできると良いのではないのでしょうか。

B委員) 出前授業については、市民から要請が来るまで待っているだけでは進まないと思います。市民が男女共同参画に興味を持ち、話を聞きたい、市役所に出前授業をしてもらおうというところまで持っていくことが必要と思います。

市民の意識を向けさせるような仕掛けが必要なのではないのでしょうか。市役所が積極的に文化会館などで講座を開いたり、市民から要請がくるような取組を実施する必要があると思います。

C委員) 年1回、浴衣教室で中学校を回っているとジェンダーの子と接する機会がありますが、未だに先生方が特別扱いしているように見えました。

具体的には、「男の子が女の子向けの浴衣を着たいと希望しているので、向こうで個別に教えて欲しい」と先生が言うんです。個性として認めてあげて、みんなと一緒にやれば済む問題だと感じます。

D委員) 先ほど市民の要請を待つというお話がありましたが、市民を巻き込むことが良いことだと思います。

私自身が市の防災委員をさせていただいておりますが、もともと興味が無かつ

た分野でしたが、参加していくうちに興味が湧いて資格試験も受けました。

行政の取組姿勢として講師をお願いするときに、何かと札幌や東京から人を呼びますよね。私も札幌や東京まで出向いて学んでいる分野がありますが、一度も根室市から声がかかったことはありません。

私の様に資格を持っていて講師を務められる技量を持っている市民がいると思います。

ですから、市で「自分はこれができる」という市民を公募・審査し、根室市の講師版人材バンクのようなものを作ったらよいのではないのでしょうか。

講師を任される市民も喜ぶでしょうし、そういった取り組みが市民全体でまちづくりをしていくことにつながって、一番良いと思います。

A委員) 市民の関心度を高めていくためには、小中高生のうちから少しずつ教育に埋め込んでいくのが重要だと思います。

B委員) 取組案の目標値を、職員の方に再考していただきたいと思います。例えば、子宮がん検診の受診率は、目標値が「増加」となっていますが、ちゃんとした数値を示すべきではないのでしょうか。現状値と目標値が同数や減少している項目も同様です。

B委員) ※欠席の委員の意見をまとめた文書をB委員が代読

広報、SNS、セミナー、研修会は限界があるため、学ぶ機会、体験の提供を増やすべきと思います。

人権の扱い方について、男女なのか、多様性のある社会の一個人なのかが統一されていない。

DVと健康推進を同じ基本目標に入れるのは少し無理があるのではないのでしょうか。

市役所の取組の見える化が重要です。成果目標について、地域や審議会などへの女性助成の参加率の令和6年度の目標値は低すぎると思います。市役所の本気度が低いと感じます。市役所も市民も一緒になって取り組むために、まずは市役所の姿勢を見える化する数値の向上が必要だと思います。

「4つの基本理念を継承し」の部分は、「4つの基本理念を継承し、新たな取り組みを実践することで」という風に変えるのがよいのではないのでしょうか。

基本理念4に「防災活動」との具体的なワードがあるため、他の基本理念でも具体例を文言に入れるとより効果的だと思います。

基本理念1の「学校教育や家庭、地域において市民の様々な学習機会を作り」を「学習機会にとどまらず、男女共同参画について学べる機会や体験を増やすことが、機会の向上、増進に効果的と考えられます。」にしてはいかがでしょうか。

基本理念3の「男女の」という部分を「個人の」とすると良いと思います。

基本理念2、DV等の暴力と健康推進が同じ理念に含まれていることに違和感があります。

誰もが生涯をおだやかに健やかに暮らすために、自身の予防策はもちろん、万が一病気になっても安心して暮らせることこそが、生涯健やかに暮らせる街と言えると思います。

学校現場では、一定程度の格差解消が進んでいますが、社会に出てから格差のある現状を目の当たりにすると、将来への不安につながります。若い世代の将来への不安を解消するため、世代間の交流が必要です。

全体的に、各家庭や学校に対する行政側のサポートが少ないように感じます。

D委員) 以前の女性セミナーのことは存じておりませんが、現在の女性セミナーは男女共同に関する人材育成の内容にはなっていないと思います。たたき台に「中核を担うリーダー育成のため」と記載がありますが、お花を生けたりお茶をたてたり、いろいろ見学したりするもので、人材育成とはちょっと違うように感じます。参加している方の年齢層も高いため、人材育成に入れるのは違和感があります。

A委員) 「男女」の部分で「個人」に変えてはどうかという意見がありましたが、計画のタイトルが「男女」なので、あえて変える必要はないと思います。

B委員) 「男女」を判断できない、迷っている人がたくさんいる中で、「男女」という言葉を使うのは今の時代では難しいと感じます。

F委員) 教育の部分がやはり大切であると改めて感じました。学校の中では仲良くしていた子どもたちも、社会に出ると、急に「あれ？」って思わせない、より一歩先に進んだ話を児童生徒に伝えたいと感じました。

一人ひとりが安心して学校に行ける、自分らしきを出せるという自信を付けさせることが重要だと感じています。

B委員) 世論調査等をみると、高校生・大学生までは男女の格差を感じないが、社会に出ると感じる方が多いので、学校教育が進んでいて、社会がそこに追いついていない、その部分をどうフォローするかが難しいところだと思います。

会 長) 子どもと大人の両面から啓発していかないと、上手くいかないですよ。

これまで様々な意見が出ておりましたが、今までの意見の内容の確認を事務局にお願いできますか。

- 市 )
- ①市民の意識を確認するためにはアンケートの深堀が必要
  - ②全体的に目標値が低いので再考が必要
  - ③市役所の取組の見える化
  - ④目標値の低さや出前講座の受け身な対応など市の取組姿勢
  - ⑤男女共同の意味を勘違いしている市民がいると思う
  - ⑥市民を講師に起用する人材バンクの設置
  - ⑦教育の重要性、子どもだけではなく大人への教育も必要という中身であったと思います。

これまでご発言いただいた内容に基づいて素案を修正させていただいて、第3回目会議前にみなさんに目を通していただけるようなスケジュール感で作業を進めさせていただきます。

ただ、一点だけ、「男女」か「個人」かの表現の意見で、この計画は男女共同参画基本法に基づき策定しているもので、ジェンダーと男女は密接に関係しているものの、「男女共同参画」はあくまでも男性と女性が希望する職種に就くためのものなので、「個人」というよりも「男女」という言葉で整理させていただいたほうが良いと思いますがいかがでしょうか。➡委員一同より、了承を得た。

会 長) 特になければ、これをもちまして会議を終了します。

たくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。